

分科会報告1

地域開発分科会「東横線跡地利用」……………田箆 勝美・山崎 清人 分科会員

(1) 当分科会では旧東横線廃線跡地の横浜駅－桜木町駅間約1.8kmを“人と緑”、“日本の新と旧”及び“世界と神奈川”をテーマに名称を「横浜国際遊歩道」として再生・有効利用を図る検討を行い、神奈川県技術士会エコ技術支援センターと共同で平成17年春非公式ながら横浜市にプレゼンを行った。基本コンセプトは下記。

- ・自転車も通れる緑の癒し空間・遊歩道
- ・365日世界が覗ける国際待合所
- ・日本の新しい顔と旧い顔に出会える場
- ・地域に溶け込んだ一体型の整備
- ・地元・地域主体型の利用運営と維持管理



(2) 跡地利用の推進母体は、横浜市都市整備局鉄道事業課である。横浜市は平成15年より横浜－桜木町駅間の東横線廃線跡地の利用計画について「高架を残し快適な緑の空間として再生」する事をコンセプトに“自転車も通れる遊歩道”、“駐輪場”、“遊歩道と周辺地区とのネットワーク”、“国道16号の歩道改善”などを検討するとして市民・来訪者など広汎に



アイデアを募るためのアンケートを実施した。アンケート結果の上位はつぎのとおりであった。

高架上の遊歩道施設：人も自転車も快適に通れる舗装
駅舎跡の利用：トイレ

国道16号歩道横の壁面：管理の行き届いた質の高いアート

国道16号の歩道：夜間照明をもっと明るく

(3) JECKとエコ技術支援センターが提案する跡地の有効利用・整備方策は下記。

- 1) 横浜－桜木町駅間は自転車も通れる遊歩道とし、基本的に東白楽－横浜駅間の基本設計の整備コンセプト及び横浜市のコンセプトに準じる。
- 2) 駅舎跡は解体せず駐輪場及び国際待合所にすると共に開発途上国の観光・物産などの常設展示場とし、各国大使館・領事館も運営の一端を担う。
- 3) 高架よりペDESTリアン橋で繋ぎ、能楽堂、にぎわい座、公園等へのアクセスを容易にして山側の賑わいを惹起する。
- 4) 線路上と国道16号歩道がゆるやかなスロープなどで自由に往来出来るよう、上下一体的に整備を行う。
- (4) 我々の提案がどのように扱われるか、現在のところ未知である。
- (5) 跡地利用は道路交通法で規制される。当分科会では国際待合所他上記方策の実現に向けて引き続き市に対して市民協働の立場よりアプローチ予定である。

分科会報告2

工業技術部会の活動報告……………菊池 正夫 部長

1. 工業技術部会の発足

4月2日に開催されたJECKの第4回総会において、JICA専門家としての海外での活動実績と工業技術分野の専門技術力を活かし、地域の国際協力・国際支援活動に効率的に取り組んで行くための協議の場として、工業技術部会の設置を提案して承認された。この活動にはSV経験を活かす会のメンバーにも自由に参加して頂き、オープンな運営を心掛けており、これまでに部会を4回、開催して次のような活動を展開している。

2. 神奈川県海外技術研修員受入れ事業への協力・支援

昨年JECKが推薦し、浄水場の水質検査と水質管理の技術研修をテーマにメキシコから招聘したエストラ・パチェコさんに続いて、本年はタイの金属材料技術センターのウィリヤラッタナサク・ピラキットさんを推薦して受け入れられ、「鋳造プロセスのコンピュータシミュレーション技術」の現場研修のため8月下旬から来日している。研修期間は来年3月迄で、帰国後はこの専門分野でのリーダーに成長して、タイの自動車部品の品質向上と生産の合理化に貢献してくれるものと期待している。

3. 海外での技術指導の経験を活かした教育機関との連携・支援活動

- (1) 神奈川県企画部政策課が担当する「研究者・技術者等学校派遣事業」に参加し、小・中学生を対象とした物作り体験学習「金属を溶かしてメダルを造ろう」を提案したが、残念ながら応募校が無かった。テーマが難しいとの意見と先生方の負担が大きいなどの意が聞かれた。この意見を来年のテーマ造りに活かして行きたい。
- (2) 県立工業高校への協力・支援活動
県立工業高校13校の機械科、電気・電子科の先生方と意見を交換し、生徒を対象としたキャリア教育の支援と、先生方を対象とした研究会でのJICA専門家としての海外技術指導の体験報告などを年度内に行うことで合意し、具体的な日程などについて打ち合わせを進めている。
- (3) 横浜国立大学公開講座への参加
11月12日にJICA専門家OB、3人が講師となり「国際技術協力の現地活動報告」というテーマでJICA専門家からみた技術移転の問題点と課題などについて報告することになった。この公開講座が好評であれば、来年度もシリーズ化して、JICA専門家の活動を一般市民に紹介して行きたいと考えている。

